

飛鳥・藤原の宮都

Ancient Capitals of Asuka and Fujiwara

区分：文化遺産

登録年：2026 年

登録基準：(ii) (iii)

所在地：奈良県橿原市 桜井市 明日香村

構成資産（19 件）：

【飛鳥の宮都を示す資産】

①飛鳥宮跡 あすかきゅうせき 明日香村

7 世紀に建設された 4 時期（飛鳥岡本宮、飛鳥板蓋宮、後飛鳥岡本宮、飛鳥浄御原宮）の宮殿遺跡。発掘調査によって石敷きや柱穴、建物跡などが確認され、地上では遺構の一部が見られる。645 年に中大兄皇子らが蘇我入鹿を討った「乙巳（いっし）の変」の舞台として知られる。

②飛鳥京跡苑池 あすかきょうあとえんち 明日香村

③飛鳥水落遺跡 あすかみずおちいせき 明日香村

④酒船石遺跡 さかふねいしいせき 明日香村

溝やくぼみが刻まれた巨大な石造遺構（酒船石）を中心とする遺跡。酒船石の用途は謎に包まれ、酒の醸造などの諸説が唱えられていたが、現在はその構造や立地などから天皇による国家祭祀遺跡と推定されている。

⑤飛鳥寺跡 あすかでらあと 明日香村

日本最古（596 年完成）の本格寺院跡。創建時の礎石や基壇が残り、江戸時代に建てられた現在の飛鳥寺（安居院）には、飛鳥時代の大仏（飛鳥大仏）が安置されている。

⑥橘寺跡 たちばなでらあと 明日香村

7 世紀前葉に造営された日本で最古級の尼寺跡。現在は僧寺として受け継がれている。聖徳太子誕生の地ともいわれている。

⑦山田寺跡 やまだでらあと 桜井市

⑧川原寺跡 かわらでらあと 明日香村

⑨檜隈寺跡 ひのくまでらあと 明日香村

⑩石舞台古墳 いしぶたいこふん 明日香村

巨大な横穴式石室が露出しており、江戸時代には観光名所として知られていた。蘇我馬子(626年没)の墓であるともいわれている。

- ⑪ 菖蒲池古墳 しょうぶいけこふん 橿原市
- ⑫ 牽牛子塚古墳 けんごしづかこふん 明日香村

【藤原の宮都を示す資産】

- ⑬ 藤原宮跡 ふじわらきゅうせき 橿原市

694年に完成した藤原京の宮殿跡。大極殿跡などの遺構は発掘後に保存のため埋め戻され、地上には朱色の復元柱が建っている。

- ⑭ 大官大寺跡 だいかんだいじあと 明日香村・橿原市
- ⑮ 本薬師寺跡 もとやくしじあと 橿原市

⑯ 天武・持統天皇陵古墳

てんむ・じとうてんのうりょうこふん 明日香村

- ⑰ 中尾山古墳 なかおやまこふん 明日香村

- ⑱ キトラ古墳 明日香村

- ⑲ 高松塚古墳 たかまつづかこふん 明日香村

1972年に極彩色の壁画が発見され、一躍全国的に有名になった古墳。「飛鳥美人」と呼ばれる女子群像や四神の壁画は、日本古代美術を代表する文化財である。壁画は保存のため石室から取り出され、現在は保存施設で管理されている（2029年度まで公開休止）。

登録の理由

○登録基準(ii)

「飛鳥・藤原の宮都」の宮殿・官衙跡、仏教寺院跡及び墳墓に見られる配置、設計、技術及び計画は、当時の中国及び朝鮮半島の政治的中心地との間で行われた人間的価値の重要な交流と、日本への仏教の導入を示している。これらの初期宮都は、8世紀以降の日本列島における宮都の建設及び発展に大きな影響を及ぼした。

○登録基準(iii)

「飛鳥・藤原の宮都」に関連する遺跡群は、その立地、空間レイアウト、相互関係及び構成を通じて、中央集権国家体制に基づく東アジアの古代宮都の形成過程という文化的伝統を伝える重要な証拠である。

概要

飛鳥・藤原は、日本の中央集権国家が誕生し、「日本」という国の基礎が築かれた地である。6世紀末から8世紀初頭にかけて、中国や朝鮮半島との交流を通じて政治制度や仏教、建築技術が取り入れられ、日本独自の文化へと発展した。その歩みは、**飛鳥宮跡・飛鳥京跡苑池・飛鳥水落遺跡・酒船石遺跡**といった宮殿・官衙跡に見ることができ、国家形成の過程を今に伝えている。

飛鳥時代には、日本初の本格的寺院である飛鳥寺をはじめ、多くの寺院が建立され、仏教が政治や文化の中心的な役割を果たした。現在は、**飛鳥寺跡、橘寺跡、山田寺跡、川原寺跡、檜隈寺跡**が世界遺産の構成資産として、その歴史を今に伝えている。また、古墳は巨大な前方後円墳から方墳・八角墳へと変化し、**石舞台古墳・菖蒲池古墳・牽牛子塚古墳**は、その変遷を示す代表的な遺跡である。さらに、**キトラ古墳**や**高松塚古墳**の極彩色壁画は、当時の東アジアとの文化交流を物語る世界的にも貴重な文化遺産である。その後、日本初の本格的な都城である**藤原宮跡**を中心に計画都市・藤原京が築かれ、**大官大寺跡**や**本薬師寺跡**とともに律令国家の政治と信仰の中心となった。また、**天武・持統天皇陵古墳**と**中尾山古墳**は、新たな国家を築いた王権を象徴する重要な墳墓である。701年に大宝律令が制定され、政治や法制度、文化が整ったことで、「日本」は律令国家としての姿を確立した。飛鳥・藤原に残る19の構成資産は、この国家誕生の歩みを総合的に伝える、世界でも類例のない文化遺産である。